



平成21年4月27日

各位

会社名 株式会社紀陽ホールディングス
代表者名 取締役社長 片山博臣
(コード番号 8415 東証・大証第1部)
問合せ先 常務取締役グループ企画部長
米坂 享
(TEL 073 - 426 - 7133)

平成21年3月期通期連結業績予想の修正及び 有価証券評価損並びに有価証券含み損に関するお知らせ

1. 連結業績予想の修正

平成20年11月14日に公表しました平成21年3月期通期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせします。

(1) 平成21年3月期通期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)
(単位:百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	87,000	800	4,300
今回修正予想 (B)	87,700	8,500	1,400
増減額 (B) - (A)	700	9,300	2,900
増減率	0.8%	-	67.4%
(ご参考)前期実績(平成20年3月期)	89,558	10,617	13,359

当社単体の業績予想につきましては、変更はございません。

(単位:百万円)

(紀陽ホールディングス単体)	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
通期	3,600	3,100	3,100	3,100

(2) 連結業績予想の修正の理由

子会社である株式会社紀陽銀行において株式市況の悪化などにより有価証券減損処理額が増加することなどに伴う、通期連結業績予想の修正です。株式会社紀陽銀行の業績見込については、下記(4)をご覧ください。

(3) 配当予想について

配当予想につきましては、平成20年11月14日に修正いたしましたとおり、普通株式1株あたり3円を期末一括にてお支払いすることを予定しております。

(4) 株式会社紀陽銀行の単体業績見込

(単位：億円)

	前回予想 (a)	今回予想 (b)	増減額 (b) - (a)	(ご参考) 前期実績
業務粗利益	476	484	8	591
資金利益	516	529	13	517
役務取引等利益	62	58	4	67
その他業務利益	102	103	1	7
うち債券関係損益	100	101	1	5
経費	360	360	0	364
コア業務純益	216	225	9	221
臨時損益	94	196	102	100
うち不良債権処理損失	63	96	33	93
うち株式関係損益	40	111	71	26
経常利益	22	72	94	117
特別損益	9	48	39	33
うち償却債権取立益	14	14	0	27
うち貸倒引当金戻入益	1	38	37	-
うち親会社株式売却損	-	-	-	51
法人税等	22	53	31	5
当期純利益	53	29	24	88
与信コスト総額	48	43	5	76

コア業務純益

銀行における本業部分による利益を示すコア業務純益につきましては、預かり資産関連商品の販売手数料が減少し役務取引等利益は前回予想を下回りますが、中小企業向けを中心に貸出金の残高が増加しておりますことなどから資金利益が順調に推移しております。

これらを受け、コア業務純益は、前回予想比9億円増加の225億円と、前期実績も上回ることができると見込んでおります。

有価証券関係損益

世界的な金融市場の混乱により、有価証券の減損処理を行ったことなどにより、株式関係の損失は、前回予想を大きく上回ると見込んでおります。

与信コスト

厳しい経済環境が続いているなかではありますが、与信コスト総額は前回予想を下回り、前期比では33億円の減少になると見込んでおります。

なお、金融再生法開示債権比率は前期末比 1.1%の3.9%台と見込んでおります。

法人税等

前回予想時よりも更に有価証券関連の損失が増加することを主因として、繰延税金資産の残高が増加するものと見込んでおります。

自己資本比率

紀陽ホールディングス連結（第2基準）で10.9%程度、紀陽銀行単体（国内基準）で10.4%程度となると見込んでおります。

2. 有価証券評価損

当社の子会社である株式会社紀陽銀行において、「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復があると認められないものについて、平成21年3月期第4四半期において減損処理による有価証券評価損を計上する必要が生じたので、お知らせいたします。

平成21年3月期第4四半期における有価証券評価損（減損処理額）

	紀陽銀行単体
(A) 平成21年3月期第4四半期会計期間（平成21年1月1日から平成21年3月31日まで）の有価証券評価損（減損処理額）の総額（=イ-ロ）	8,160百万円
(イ) 平成21年3月期（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）の有価証券評価損（減損処理額）の総額	20,702百万円
(ロ) 直前四半期（平成21年3月期第3四半期）累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）の有価証券評価損（減損処理額）の総額	12,541百万円

四半期における有価証券の評価方法は、第1四半期から第3四半期までは洗替え方式、第4四半期は切放し方式を採用しております。

当社グループの決算期末は、3月31日であります。

上記減損処理額（A）のうち、国債等債券償却は2,090百万円、株式等償却は6,070百万円であります。

紀陽銀行単体のその他有価証券評価差額金は、34,139百万円（速報値）です。

連結純資産額・連結経常利益額・連結当期純利益額に対する割合

(B) 平成20年3月期末の連結純資産額	146,049百万円
(A / B × 100)	5.6%
(イ / B × 100)	14.2%
(C) 平成20年3月期の連結経常利益額	10,617百万円
(A / C × 100)	76.9%
(イ / C × 100)	195.0%
(D) 平成20年3月期の連結当期純利益額	13,359百万円
(A / D × 100)	61.1%
(イ / D × 100)	155.0%

3. 有価証券含み損（「満期保有目的の債券」及び「関連会社株式」）

株式会社紀陽銀行が保有する有価証券（「満期保有目的の債券」及び「関連会社株式」のうち、時価を合理的に算定できるもの）について、平成21年3月期末における含み損を算出いたしました結果につき、お知らせいたします。

	紀陽銀行単体
(A) 平成21年3月期末の有価証券含み損の総額	4,580百万円
(B) 平成20年3月期の連結経常利益額 (A / B × 100)	10,617百万円 (43.1%)
(C) 平成20年3月期の連結当期純利益額 (A / C × 100)	13,359百万円 (34.3%)

「満期保有目的の債券」及び「関連会社株式」のうち、時価を合理的に算定できるものの全てを対象としております。

対象有価証券の帳簿価額 225,075百万円
時 価 220,845百万円

以 上

(注) 本資料の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。